

第2回読書のまちづくり市民ワークショップ開催結果概要

と き : 平成24年5月17日(木) 18:00~20:30

ところ : 市立図書館会議室(恵み野西5-10-2)

出席者 : ワークショップメンバー 10名

ファシリテーター(進行役) 2名

傍聴者 4名

事務局 8名

開 会

テーマ

- 全体討議「お互いを知ろう」
- グループ討議「読書のまちづくりのイメージを浮かべよう」

全体討議

恵庭市の読書の取り組みを振り返る映像を視聴

【映像】「日本一の読書のまちをめざして～恵庭市と市立図書館の活動～」から抜粋
映像の感想を交えた自己紹介

グループ討議

A・Bの2つのグループに分かれ、ファシリテーターを中心にテーマに沿ってワークショップを行いました。

図書館活動にかかわる市民団体の映像を視聴

【映像】「黄色いエプロンの会～本のリサイクル市～」他

Aグループ

読書のまちづくりのキーワードは何か

- ・人と人との交流
- ・多様な読み聞かせボランティア
- ・子は親の鏡
- ・恵まれた読書環境
- ・子どもの環境OK、
大人はどうか？



恵庭の読書のまちづくりの イメージ

- ・ 恵庭の読書は一本の柱がある
- ・ 分館的な活動を進めようとしている
- ・ 地域の核づくり
- ・ 市民の意識が高い
- ・ 読書のイメージが前は「孤立」、今は「恵庭は交流」
- ・ 赤ちゃんからのつながり 人生の節目に本をプレゼント～成人や還暦のお祝い
- ・ 読んだ人の「一言感想」があれば読みたいかも
- ・ 学校の配本システム同様に地域にもブックステーション
- ・ 学校図書館を市民にも開放
- ・ 家もいいけれど地域や校区内に場がほしい
- ・ 子どもと大人～「交流」と「共有」
- ・ 文教大学の大学図書館や子ども発達学科との連携の可能性
- ・ 本は単価が高いし場所をとる ウェブサイトの様々なサービス
- ・ 読書を通してのコミュニケーションが大切
- ・ 読書に対して敷居が高い
- ・ 行政が御膳立てしているだけではうまくいかない
- ・ 関わりは必要だけど深く関わらなくても本なら大丈夫
- ・ 家読 数的なものは求めない、家族と一緒に「理想」 現代社会の実態は？ 保護者の代わりに存在を!



発表

恵庭の読書環境はとても整備されているのでこれを充実させていってはどうかということ話し合いました。読書コミュニティの場として分館のような場を市内各地域に置くこと、そこでコミュニケーションが取れるのではないのでしょうか。また、ブックスタットから幼稚園・小学校・中学校



というつながりを人生の節目にも広げて、成人、還暦、喜寿と人生の節目に本をプレゼントする。どんな本を読んでほしいか市民から募集し、それをプレゼン

トするという流れを継続することが読書のまちにつながるのではないかと思います。ボランティアをされている人が多いので、みなさんの活動を拠点につながりを広げていけたらいいのではないのでしょうか。

B グル - プ

読書のまちづくりのキーワードは何か

- ・読書は心の栄養素の一つ 優しい大人になるために
- ・郷土愛
- ・読書（本） リサイクル、読書（本）ボランティア 高齢者 コミュニケーション 元気づくり
- ・将来への道
- ・健康

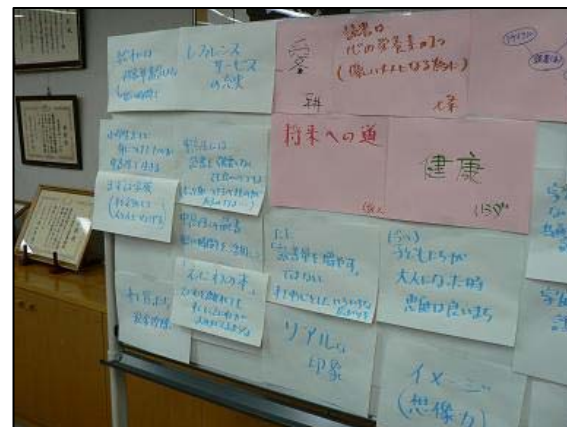
想像力 イメージする力、文字と文章

恵庭の読書のまちづくりのイメージ

- ・図書館がとても良い場所、健康でない人や障がいのある人も気持ちよく読書できる環境づくり
- ・学校図書館が良い本にふれるきっかけの場～今の子どもたちが大人になった時に恵庭は良いまち
- ・小学生までに身につけたものが中高生で生きる
- ・駅にある「 文庫」のような自由な本のある場所
- ・町内会館にいらなくなった本 子どもや親が来る
- ・生活のスタイルに合った読書活動（家庭での読書）
- ・レファレンスサ - ビスの充実
- ・「恵庭の本」 恵庭を離れてもすぐにふるさとがよみがえるような...
- ・本を買ったら税金を控除
- ・家族が揃う時間ない～共通で読んだ本の話題 共通の話題になる
- ・ただ「読書量を増やす」ではない～本を中心としたいろいろな広がり
- ・中高生には読書を強要しなくても良いのでは もっと身につけるべきものがあるのでは...
- ・中高生の読書は短い時間を活用して
- ・まずは家族～本をネタにして人と人をつなげる



言語能力が身につく



発表

図書館だけでなく、読書の場として駅などの活用もいいのではないかというのが一つ。そして、忙しい中高生の本との関わりについて話し合ったところ、家族という言葉が出てきました。家族で過ごす時間がなくても、テ - ブルに本を置いておけば「これなあに」という形で親子



の会話につながるのではないのでしょうか。本を媒介として家族がつながり、読書を通して話題がつながるといことも一つでました。ここに郷土愛とありますが、恵庭を離れ帰って来た時に、あるいは他に行っても恵庭は素晴らしいところだと言えるような読書のまちになればと話し合いました。

まとめ(ファシリテーター)

今日は条例につながるエッセンスを十分出していただきました。家族のふれあい、読書環境のこと、つながることなど、グループに共通した言葉がいくつかありました。また、今日の目的の一つにみなさんがより近い関係になればというのもありました。そのことも問題ないと思っています。今後どのように積み重ね合っていくのかについては、この雰囲気次第につながれば大丈夫だと思っています。今日のワークショップはこれで終了します。ご協力ありがとうございました。



閉会